

2022年1月31日

上場会社名 京成電鉄株式会社
 コード番号 9009 URL <https://www.keisei.co.jp/>
 代表者 (役職名) 代表取締役社長 (氏名) 小林 敏也
 問合せ先責任者 (役職名) 経理部連結・受託課長 (氏名) 浅岡 祐介
 四半期報告書提出予定日 2022年2月10日
 配当支払開始予定日
 四半期決算補足説明資料作成の有無 : 有
 四半期決算説明会開催の有無 : 無

上場取引所 東

TEL 047-712-7100

(百万円未満切捨て)

1. 2022年3月期第3四半期の連結業績(2021年4月1日～2021年12月31日)

(1) 連結経営成績(累計)

(%表示は、対前年同四半期増減率)

	営業収益		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属する 四半期純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
2022年3月期第3四半期	160,290	3.2	2,192		2,258		4,438	
2021年3月期第3四半期	155,342	25.4	11,943		20,189		19,314	

(注) 包括利益 2022年3月期第3四半期 5,021百万円 (%) 2021年3月期第3四半期 19,170百万円 (%)

	1株当たり四半期純利益	潜在株式調整後1株当たり 四半期純利益
	円 銭	円 銭
2022年3月期第3四半期	26.33	
2021年3月期第3四半期	114.55	

(2) 連結財政状態

	総資産	純資産	自己資本比率
	百万円	百万円	%
2022年3月期第3四半期	897,959	387,199	41.1
2021年3月期	900,698	396,044	42.0

(参考) 自己資本 2022年3月期第3四半期 369,335百万円 2021年3月期 378,638百万円

2. 配当の状況

	年間配当金				
	第1四半期末	第2四半期末	第3四半期末	期末	合計
	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭
2021年3月期		8.50		8.50	17.00
2022年3月期		8.50			
2022年3月期(予想)				8.50	17.00

(注) 直近に公表されている配当予想からの修正の有無 : 無

3. 2022年3月期の連結業績予想(2021年4月1日～2022年3月31日)

(%表示は、対前期増減率)

	営業収益		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属する 当期純利益		1株当たり 当期純利益
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%	円 銭
通期	229,200	10.3	2,400		2,200		5,300		31.45

(注) 直近に公表されている業績予想からの修正の有無 : 無

注記事項

- (1) 当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動(連結範囲の変更を伴う特定子会社の異動) : 無
- (2) 四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用 : 無
- (3) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示
- | | |
|--------------------|-----|
| 会計基準等の改正に伴う会計方針の変更 | : 有 |
| 以外の会計方針の変更 | : 無 |
| 会計上の見積りの変更 | : 無 |
| 修正再表示 | : 無 |

(4) 発行済株式数(普通株式)

期末発行済株式数(自己株式を含む)	2022年3月期3Q	172,411,185 株	2021年3月期	172,411,185 株
期末自己株式数	2022年3月期3Q	3,877,009 株	2021年3月期	3,877,555 株
期中平均株式数(四半期累計)	2022年3月期3Q	168,533,661 株	2021年3月期3Q	168,620,224 株

四半期決算短信は公認会計士又は監査法人の四半期レビューの対象外です

業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

1.本資料に記載されている将来に関する記述は、発表日現在において入手可能な情報に基づき作成したものであり、実際の業績は異なる結果となる場合があります。なお、連結業績予想に関する事項は、添付資料4ページ「1.(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明」をご覧ください。

2.四半期決算補足説明資料は、当四半期決算短信に添付しております。

○添付資料の目次

1. 当四半期決算に関する定性的情報	P2
(1) 経営成績に関する説明	P2
(2) 財政状態に関する説明	P4
(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明	P4
2. 四半期連結財務諸表及び主な注記	P5
(1) 四半期連結貸借対照表	P5
(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書	P7
四半期連結損益計算書	P7
四半期連結包括利益計算書	P8
(3) 四半期連結財務諸表に関する注記事項	P9
(継続企業の前提に関する注記)	P9
(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)	P9
(会計方針の変更)	P9
(追加情報)	P9
(セグメント情報)	P10
3. 四半期決算補足説明資料	P11

1. 当四半期決算に関する定性的情報

(1) 経営成績に関する説明

当第3四半期連結累計期間におけるわが国経済は、新型コロナウイルス感染症（以下「感染症」）の影響が大きく、個人消費に持ち直しの動きがみられるものの、雇用情勢及び非製造業の一部における企業収益に弱さがみられるなど、依然として厳しい状況で推移いたしました。

このような状況の中で、当社グループは、運輸業をはじめとした総合生活産業として必要な人員を確保しつつ、お客様及び従業員への感染防止の措置を講じた上で需要動向を踏まえ事業を運営しております。また、中期経営計画「E4プラン」の基本方針である「グループ経営強化による収益拡大の確実な実現」、「安全かつ安心なサービスの提供」、「社会的要請に対応した経営推進体制の確立」に基づき諸施策を推進してまいりました。

以上の結果、2020年度に引き続き、入国制限によるインバウンド需要の消失に加え、外出の自粛等による消費の低迷等の影響を受け、営業収益は1,602億9千万円（前年同期比3.2%増）となり、営業損失は21億9千2百万円（前年同期は営業損失119億4千3百万円、97億5千1百万円の改善）となりました。経常損失は、22億5千8百万円（前年同期は経常損失201億8千9百万円、179億3千万円の改善）となり、親会社株主に帰属する四半期純損失は44億3千8百万円（前年同期は親会社株主に帰属する四半期純損失193億1千4百万円、148億7千6百万円の改善）となりました。なお、「収益認識に関する会計基準」（企業会計基準第29号 2020年3月31日）の適用により、営業収益は119億3千6百万円減少しております。

セグメント別の業績は、以下のとおりであります。

<運輸業>

感染症対策として、政府公表の基本的対処方針等を踏まえ、従業員のマスク着用、消毒、換気及びお客様が手を触れる箇所を中心とした鉄道・バス車両等への抗菌・抗ウイルス加工の実施に加え、鉄道業を中心とした新型コロナワクチンの職域接種を6月21日より開始し、2回目接種まで完了いたしました。

鉄道事業では、当社及び北総鉄道株式会社において、沿線の活性化に繋がるよう成田空港線及び北総線の運賃について、本年10月を実施予定とする値下げを公表いたしました。

安全輸送確保の取り組みとして、2018年度より進めていた列車無線設備更新工事が一定程度進捗し、より高品質な通話の実現が可能なデジタル方式の列車無線の使用を順次開始しております。また、高架橋の耐震補強工事及び西登戸駅の駅舎建替え工事等を進めました。

大規模工事については、葛飾区内の押上線連続立体化工事において、京成立石駅の仮駅舎新設工事を推進いたしました。

営業面では、政府による行動制限緩和等を見据え、10月30日より、一部運休していたスカイライナーの運転を再開いたしました。また、人気タレントが演じる「京成王子」をモチーフにした特別装飾のスカイライナーを7月より運行いたしました。さらに、コロナ禍での旅行需要に対応して、京成線全線が1日乗り降り自由となる「京成線ワンデーパス」等の企画乗車券を期間限定で発売いたしました。このほか、上野動物園の双子の赤ちゃんパンダの命名を記念し、記念ヘッドマークを掲出した車両を運行したほか、記念乗車券の発売を実施いたしました。

バス事業では、感染症の影響に伴う成田空港発着航空便の運休・減便や東京ディズニーランド及び東京ディズニーシーの入園者数の制限等を踏まえ、高速バス路線において運休・減便を2020年度に引き続き、実施いたしました。一方、柏の葉・流山おおたかの森～東京駅間の路線を新設するなど、需要の取り込みを図りました。一般乗合バス路線においては、利便性向上を図るためのダイヤ改正等を実施したほか、千葉海浜交通株式会社において、路線バス全線が1日乗り降り自由となる「海浜1日乗車券」を発売し、利用促進を図りました。

また、バス事業及びタクシー事業の共通の取り組みとして、東京2020オリンピック・パラリンピックの開催に伴い、選手・スタッフ輸送を受注し、収益の確保に努めたほか、安全・円滑な輸送サービスの提供に寄与いたしました。

以上の結果、2020年度に引き続き、インバウンド需要の消失や感染症の影響を受けた外出の自粛等により、営業収益は877億8千4百万円（前年同期比12.0%増）となり、営業損失は79億2千2百万円（前年同期は営業損失178億8千3百万円、99億6千万円の改善）となりました。

<流通業>

ストア業では、株式会社京成ストアにおいて、千葉市内等での移動訪問販売事業を拡大したほか、10月に開業した京成千葉中央ビル内に「リブレ京成千葉中央店」を新たにオープンいたしました。また、株式会社コミュニティー京成において、フランチャイズ契約を締結し「リトルマーメイド千葉中央駅店」の営業を開始いたしました。

その他流通業では、京成バラ園芸株式会社において、バラ園の入園券と京成線各駅からバラ園までの鉄道・バス各往復乗車券がセットになった「京成ローズきっぷ」の企画により、集客に努めました。

しかしながら、営業収益は350億6千2百万円（前年同期比21.9%減）となり、営業損失は3億1百万円（前年同期は営業損失3千5百万円）となりました。なお、「収益認識に関する会計基準」の適用により、営業収益は123億9千万円減少しております。

<不動産業>

不動産賃貸業では、「京成千葉中央ビル」及び「京成リッチモンドホテル東京錦糸町」等が稼働したほか、市川市市川の賃貸施設を取得いたしました。また、本年3月にオープン予定の「京成リッチモンドホテル東京押上」の工事を推進しております。

不動産販売業では、中高層住宅「サングランデ八王子」及び「サングランデ立石」の全戸引き渡しを完了したほか、今年度末に引き渡し開始予定の中高層住宅「パークホームズ千葉」を販売いたしました。また、中高層住宅予定地として、千葉市若葉区都賀の土地を取得いたしました。このほか、京成不動産株式会社において、「KEISEI×BIZcomfort青砥駅前」等のシェアオフィスを3店舗オープンいたしました。

以上の結果、営業収益は198億6千7百万円（前年同期比13.2%増）となりましたが、営業利益は65億7千8百万円（前年同期比0.0%減）となりました。

<レジャー・サービス業>

レジャー・サービス業では、対象の京成グループ各施設にて、新型コロナワクチン接種証明または陰性証明の提示で、優待・割引のサービスを受けることができる「京成グループ ワクチン接種優待キャンペーン」を実施いたしました。また、京成千葉中央ビル内に「京成ホテルミラマーレ アネックス」を開業したほか、「京成リッチモンドホテル東京錦糸町」を開業いたしました。このほか、京成トラベルサービス株式会社において、感染症の状況を考慮した上で、京成線内を特別行路で運行する各種のイベント列車ツアー等、多様な旅行商品の企画・催行により、収益の確保に努めました。

以上の結果、2020年度に引き続き、感染症の影響を受けた外出の自粛等により、営業収益は58億7千8百万円（前年同期比20.7%増）となり、営業損失は12億8千9百万円（前年同期は営業損失15億1千9百万円、2億3千万円の改善）となりました。

<建設業>

建設業では、鉄道施設改良工事や当社グループ外から受注している各種工事を実施いたしました。

以上の結果、営業収益は193億5千2百万円（前年同期比21.8%増）となりましたが、営業利益は6億4百万円（前年同期比14.5%減）となりました。

(2) 財政状態に関する説明

資産合計は、前期末比27億3千8百万円(0.3%)減の8,979億5千9百万円となりました。これは、持分法適用会社株式の減少により「投資有価証券」が減少したことによるものです。

負債合計は、前期末比61億7百万円(1.2%)増の5,107億6千万円となりました。これは、有利子負債が増加したことによるものです。

純資産合計は、前期末比88億4千5百万円(2.2%)減の3,871億9千9百万円となりました。これは、親会社株主に帰属する四半期純損失の計上により「利益剰余金」が減少したことによるものです。

(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明

2022年3月期の業績予想については、第3四半期の業績を踏まえ検討した結果、2021年10月29日に公表した数値を据え置いております。

今後の動向を踏まえ、業績予想の修正が必要と判断した場合は速やかに公表いたします。

2. 四半期連結財務諸表及び主な注記

(1) 四半期連結貸借対照表

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (2021年3月31日)	当第3四半期連結会計期間 (2021年12月31日)
資産の部		
流動資産		
現金及び預金	29,133	32,486
受取手形及び売掛金	21,515	—
受取手形、売掛金及び契約資産	—	23,384
分譲土地建物	6,938	6,373
商品	2,080	2,346
仕掛品	1,063	302
原材料及び貯蔵品	3,491	3,437
その他	15,347	12,912
貸倒引当金	△25	△16
流動資産合計	79,545	81,227
固定資産		
有形固定資産		
建物及び構築物(純額)	289,092	291,821
機械装置及び運搬具(純額)	26,783	23,883
土地	183,630	188,166
リース資産(純額)	36,587	35,152
建設仮勘定	39,591	37,901
その他(純額)	3,127	2,988
有形固定資産合計	578,812	579,913
無形固定資産		
リース資産	1,117	1,041
その他	12,316	11,464
無形固定資産合計	13,433	12,506
投資その他の資産		
投資有価証券	207,321	202,016
長期貸付金	304	395
繰延税金資産	16,876	17,520
その他	4,132	4,058
貸倒引当金	△167	△166
投資その他の資産合計	228,467	223,824
固定資産合計	820,713	816,243
繰延資産	438	488
資産合計	900,698	897,959

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (2021年3月31日)	当第3四半期連結会計期間 (2021年12月31日)
負債の部		
流動負債		
支払手形及び買掛金	18,059	16,539
短期借入金	52,472	57,212
コマーシャル・ペーパー	4,000	6,000
リース債務	6,609	6,617
未払法人税等	1,616	1,215
賞与引当金	3,382	1,620
その他	61,092	56,826
流動負債合計	147,232	146,031
固定負債		
社債	90,450	110,450
長期借入金	149,109	138,518
鉄道・運輸機構長期未払金	43,541	42,009
リース債務	24,946	23,682
繰延税金負債	1,812	2,023
退職給付に係る負債	35,889	36,027
その他	11,672	12,017
固定負債合計	357,421	364,729
負債合計	504,653	510,760
純資産の部		
株主資本		
資本金	36,803	36,803
資本剰余金	28,411	28,410
利益剰余金	317,899	309,843
自己株式	△6,184	△6,184
株主資本合計	376,930	368,873
その他の包括利益累計額		
その他有価証券評価差額金	3,075	1,650
繰延ヘッジ損益	30	31
退職給付に係る調整累計額	△1,397	△1,220
その他の包括利益累計額合計	1,708	462
非支配株主持分	17,406	17,863
純資産合計	396,044	387,199
負債純資産合計	900,698	897,959

(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書

四半期連結損益計算書

第3四半期連結累計期間

(単位：百万円)

	前第3四半期連結累計期間 (自2020年4月1日 至2020年12月31日)	当第3四半期連結累計期間 (自2021年4月1日 至2021年12月31日)
営業収益	155,342	160,290
営業費		
運輸業等営業費及び売上原価	140,137	133,865
販売費及び一般管理費	27,148	28,617
営業費合計	167,286	162,483
営業損失(△)	△11,943	△2,192
営業外収益		
受取利息	180	170
受取配当金	277	231
雇用調整助成金	2,489	1,421
雑収入	1,467	1,548
営業外収益合計	4,414	3,371
営業外費用		
支払利息	1,844	1,794
持分法による投資損失	10,255	1,137
雑支出	559	505
営業外費用合計	12,659	3,437
経常損失(△)	△20,189	△2,258
特別利益		
持分変動利益	—	704
投資有価証券売却益	—	300
工事負担金等受入額	343	90
その他	32	74
特別利益合計	375	1,169
特別損失		
固定資産除却損	200	530
減損損失	9	242
固定資産圧縮損	284	155
投資有価証券評価損	43	39
臨時休業による損失	306	—
特別損失合計	843	968
税金等調整前四半期純損失(△)	△20,656	△2,058
法人税、住民税及び事業税	1,186	1,444
法人税等調整額	△2,726	277
法人税等合計	△1,540	1,722
四半期純損失(△)	△19,116	△3,780
非支配株主に帰属する四半期純利益	198	657
親会社株主に帰属する四半期純損失(△)	△19,314	△4,438

四半期連結包括利益計算書

第3四半期連結累計期間

(単位：百万円)

	前第3四半期連結累計期間 (自 2020年4月1日 至 2020年12月31日)	当第3四半期連結累計期間 (自 2021年4月1日 至 2021年12月31日)
四半期純損失(△)	△19,116	△3,780
その他の包括利益		
その他有価証券評価差額金	131	△1,221
退職給付に係る調整額	178	212
持分法適用会社に対する持分相当額	△363	△231
その他の包括利益合計	△53	△1,241
四半期包括利益	△19,170	△5,021
(内訳)		
親会社株主に係る四半期包括利益	△19,381	△5,684
非支配株主に係る四半期包括利益	211	662

(3) 四半期連結財務諸表に関する注記事項

(継続企業の前提に関する注記)

該当事項はありません。

(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)

該当事項はありません。

(会計方針の変更)

(収益認識に関する会計基準等の適用)

「収益認識に関する会計基準」(企業会計基準第29号 2020年3月31日。以下「収益認識会計基準」という。)等を第1四半期連結会計期間の期首から適用し、約束した財又はサービスの支配が顧客に移転した時点で、当該財又はサービスと交換に受け取ると見込まれる金額で収益を認識することとしております。

これによる主な変更点は以下のとおりです。

(1) 定期乗車券に係る収益認識

運輸業における定期乗車券に係る収益について、従来は、発売月から一定の期間にわたり収益を認識しておりましたが、有効開始月から一定の期間にわたり収益を認識する方法に変更しております。

(2) 代理人取引に係る収益認識

流通業における一部の代理人取引に係る収益について、従来は、総額で収益を認識しておりましたが、顧客への財又はサービスの提供における役割(本人又は代理人)を判断した結果、純額で収益を認識する方法に変更しております。

収益認識会計基準等の適用については、収益認識会計基準第84項ただし書きに定める経過的な取扱いに従っており、第1四半期連結会計期間の期首より前に新たな会計方針を遡及適用した場合の累積的影響額を、第1四半期連結会計期間の期首の利益剰余金に加減し、当該期首残高から新たな会計方針を適用しております。

この結果、当第3四半期連結累計期間の営業収益が11,936百万円、運輸業等営業費及び売上原価が11,618百万円、販売費及び一般管理費が376百万円、それぞれ減少しております。営業損失、経常損失及び税金等調整前四半期純損失に与える影響は軽微であります。また、利益剰余金の当期首残高は692百万円減少しております。

収益認識会計基準等を適用したため、前連結会計年度の連結貸借対照表において、「流動資産」に表示していた「受取手形及び売掛金」は、第1四半期連結会計期間より「受取手形、売掛金及び契約資産」に含めて表示することとしました。なお、収益認識会計基準第89-2項に定める経過的な取扱いに従って、前連結会計年度について新たな表示方法により組替えを行っておりません。

(時価の算定に関する会計基準等の適用)

「時価の算定に関する会計基準」(企業会計基準第30号 2019年7月4日。以下「時価算定会計基準」という。)等を第1四半期連結会計期間の期首から適用し、時価算定会計基準第19項及び「金融商品に関する会計基準」(企業会計基準第10号 2019年7月4日)第44-2項に定める経過的な取扱いに従って、時価算定会計基準等が定める新たな会計方針を、将来にわたって適用することとしております。なお、四半期連結財務諸表に与える影響はありません。

(追加情報)

(会計上の見積りを行う上での新型コロナウイルス感染症の影響)

固定資産の減損及び繰延税金資産の回収可能性の判断等の会計上の見積りを行う上での、新型コロナウイルス感染症の影響については、2021年度以降も影響が一定程度継続するものと仮定し、会計上の見積りを行っております。

なお、当該仮定は、将来の不確実な経済条件の変動等によって影響を受ける可能性があり、仮定の見直しが必要となった場合、連結財務諸表に重要な影響を与える可能性があります。

(セグメント情報)

I 前第3四半期連結累計期間(自 2020年4月1日 至 2020年12月31日)

報告セグメントごとの営業収益及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位:百万円)

	報告セグメント						計	調整額 (注)1	四半期 連結損益 計算書 計上額 (注)2
	運輸業	流通業	不動産業	レジャー・ サービス業	建設業	その他 の事業			
営業収益									
(1) 外部顧客に対する 営業収益	78,101	44,555	13,696	3,909	11,713	3,367	155,342	—	155,342
(2) セグメント間の内部 営業収益又は振替高	310	352	3,860	962	4,177	2,528	12,191	△12,191	—
計	78,411	44,907	17,556	4,871	15,891	5,895	167,533	△12,191	155,342
セグメント利益 又は損失(△)	△17,883	△35	6,579	△1,519	707	241	△11,909	△34	△11,943

(注)1 セグメント利益又は損失の調整額は、セグメント間取引消去及びのれん償却額であります。

2 セグメント利益又は損失は、四半期連結損益計算書の営業損失と調整を行っております。

II 当第3四半期連結累計期間(自 2021年4月1日 至 2021年12月31日)

1 報告セグメントごとの営業収益及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位:百万円)

	報告セグメント						計	調整額 (注)1	四半期 連結損益 計算書 計上額 (注)2
	運輸業	流通業	不動産業	レジャー・ サービス業	建設業	その他 の事業			
営業収益									
(1) 外部顧客に対する 営業収益	87,360	34,763	15,863	5,029	13,905	3,367	160,290	—	160,290
(2) セグメント間の内部 営業収益又は振替高	423	299	4,003	849	5,447	1,859	12,883	△12,883	—
計	87,784	35,062	19,867	5,878	19,352	5,226	173,173	△12,883	160,290
セグメント利益 又は損失(△)	△7,922	△301	6,578	△1,289	604	190	△2,140	△52	△2,192

(注)1 セグメント利益又は損失の調整額は、セグメント間取引消去及びのれん償却額であります。

2 セグメント利益又は損失は、四半期連結損益計算書の営業損失と調整を行っております。

2 報告セグメントの変更等に関する事項

(収益認識に関する会計基準等の適用)

「四半期連結財務諸表に関する注記事項(会計方針の変更)」に記載のとおり、第1四半期連結会計期間の期首から収益認識会計基準等を適用し、収益認識に関する会計処理方法を変更したため、事業セグメントの利益又は損失の算定方法を同様に變更しております。

当該変更により、従来の方法に比べて、当第3四半期連結累計期間の「流通業」の営業収益が12,390百万円減少しております。その他のセグメントの営業収益及びセグメント利益又は損失に与える影響は軽微であります。

3. 四半期決算補足説明資料

■連結損益計算書

- ・新型コロナウイルス感染症による影響は残るものの、前年同期と比べ増収となり、収支が改善
- ・緊急事態宣言解除以降の需要回復により、第3四半期(10~12月)は営業利益を計上
- ・「収益認識に関する会計基準」影響(営業収益): **△119億円**(主な内訳: 流通業△124億円)

単位: 百万円、%		2020.3Q累計 実績	2021.3Q累計 実績	増 減	率	(参考)	
						2021.3Q会計 (10~12月)	対前年同期 増減
運輸業	営業収益	78,411	87,784	9,373	12.0	31,402	2,172
	営業利益	△17,883	△7,922	9,960	-	△463	2,018
流通業	営業収益	44,907	35,062	△9,844	△21.9	11,675	△3,796
	営業利益	△35	△301	△266	-	△195	△138
不動産業	営業収益	17,556	19,867	2,310	13.2	6,312	△586
	営業利益	6,579	6,578	△1	△0.0	2,164	△318
レジャー・サービス業	営業収益	4,871	5,878	1,007	20.7	2,486	408
	営業利益	△1,519	△1,289	230	-	△297	△32
建設業	営業収益	15,891	19,352	3,461	21.8	7,469	2,094
	営業利益	707	604	△102	△14.5	223	27
その他の事業	営業収益	5,895	5,226	△669	△11.3	1,941	△512
	営業利益	241	190	△50	△21.0	121	△84
小 計	営業収益	167,533	173,173	5,639	3.4	61,287	△220
	営業利益	△11,909	△2,140	9,769	-	1,554	1,471
連結修正	営業収益	△12,191	△12,883	△691	-	△5,153	513
	営業利益	△34	△52	△18	-	△20	△9
連 結	営業収益	155,342	160,290	4,947	3.2	56,133	292
	営業利益	△11,943	△2,192	9,751	-	1,534	1,462
営業外収益		4,414	3,371	△1,042	△23.6	1,042	△213
営業外費用		12,659	3,437	△9,221	△72.8	△1,965	△3,554
経常利益		△20,189	△2,258	17,930	-	4,542	4,803
特別利益		375	1,169	793	211.1	734	687
特別損失		843	968	124	14.8	514	456
税金等調整前四半期純利益		△20,656	△2,058	18,598	-	4,763	5,035
法人税	法人税等	1,186	1,444	258	21.8	499	140
	同調整額	△2,726	277	3,004	-	572	465
	計	△1,540	1,722	3,263	-	1,072	605
四半期純利益		△19,116	△3,780	15,335	-	3,690	4,429
非支配株主に帰属する四半期純利益		198	657	459	231.4	341	45
親会社株主に帰属する四半期純利益		△19,314	△4,438	14,876	-	3,348	4,384

営業外収益

雇用調整助成金	2,489	1,421	416
---------	-------	--------------	-----

営業外費用

持分法による投資損失	10,255	1,137	△2,673
------------	--------	--------------	--------

■主要セグメントの内訳

・運輸業

単位:百万円、%		2020.3Q累計 実績	2021.3Q累計 実績	増減	率	(参考)	
						2021.3Q会計 (10~12月)	対前年同期 増減
鉄道事業	営業収益	37,331	41,378	4,047	10.8	14,770	1,150
	営業利益	△7,494	△3,764	3,730	-	△106	779
バス事業	営業収益	24,963	29,114	4,151	16.6	10,510	1,023
	営業利益	△7,564	△3,025	4,539	-	△276	1,053
タクシー事業	営業収益	16,117	17,291	1,174	7.3	6,120	△2
	営業利益	△2,823	△1,133	1,690	-	△79	185
運輸業	営業収益	78,411	87,784	9,373	12.0	31,402	2,172
	営業利益	△17,883	△7,922	9,960	-	△463	2,018

・流通業

単位:百万円、%		2020.3Q累計 実績	2021.3Q累計 実績	増減	率	(参考)	
						2021.3Q会計 (10~12月)	対前年同期 増減
ストア業	営業収益	26,395	24,024	△2,371	△9.0	8,039	△611
	営業利益	273	△14	△287	-	△118	△151
百貨店業	営業収益	15,145	7,353	△7,792	△51.4	2,321	△3,313
	営業利益	△297	△366	△69	-	△136	△43
その他	営業収益	3,366	3,685	318	9.5	1,314	128
	営業利益	△11	78	89	-	59	56
流通業	営業収益	44,907	35,062	△9,844	△21.9	11,675	△3,796
	営業利益	△35	△301	△266	-	△195	△138

(注)「収益認識に関する会計基準」影響(営業収益):ストア業△34億円、百貨店業△90億円

・不動産業

単位:百万円、%		2020.3Q累計 実績	2021.3Q累計 実績	増減	率	(参考)	
						2021.3Q会計 (10~12月)	対前年同期 増減
賃貸業	営業収益	11,006	11,332	326	3.0	3,927	240
	営業利益	6,162	5,967	△195	△3.2	1,990	△127
販売業	営業収益	3,646	5,606	1,959	53.7	1,351	△1,027
	営業利益	273	447	173	63.4	117	△209
管理業	営業収益	2,904	2,929	24	0.9	1,033	200
	営業利益	142	162	20	14.2	56	18
不動産業	営業収益	17,556	19,867	2,310	13.2	6,312	△586
	営業利益	6,579	6,578	△1	△0.0	2,164	△318

■鉄道事業 輸送人員及び旅客運輸収入内訳表(単体)

単位:千人、百万円、%		2020.3Q累計 実績	2021.3Q累計 実績	増減	率
輸送人員	定期	101,289	103,900	2,611	2.6
	定期外	56,620	66,771	10,151	17.9
	計	157,909	170,671	12,762	8.1
	うち成田空港発着	(5,258)	(6,095)	(837)	(15.9)
	うち有料特急	(751)	(1,057)	(306)	(40.7)
旅客運輸収入	定期	12,626	12,639	12	0.1
	定期外	14,275	17,753	3,477	24.4
	計	26,902	30,392	3,490	13.0
	うち成田空港発着	(2,939)	(4,196)	(1,257)	(42.8)
	うち有料特急	(530)	(850)	(320)	(60.4)

[参考] 2019年度第3四半期との比較

単位:千人、百万円、%		2019.3Q累計 実績	2021.3Q累計 実績	増減	率
輸送人員	定期	133,902	103,900	△ 30,002	△22.4
	定期外	92,400	66,771	△ 25,629	△27.7
	計	226,302	170,671	△ 55,631	△24.6
	うち成田空港発着	(17,143)	(6,095)	(△11,048)	(△64.4)
	うち有料特急	(4,887)	(1,057)	(△3,830)	(△78.4)
旅客運輸収入	定期	16,561	12,639	△ 3,922	△23.7
	定期外	34,255	17,753	△ 16,502	△48.2
	計	50,817	30,392	△ 20,424	△40.2
	うち成田空港発着	(16,945)	(4,196)	(△12,749)	(△75.2)
	うち有料特急	(4,696)	(850)	(△3,845)	(△81.9)

(注)輸送人員:千人未満を四捨五入して表示しております。

旅客運輸収入:百万円未満を切り捨てて表示しております。

以上